

目視調査方法

目視調査とは、作業員が目で見えてヒアリの巣や個体を探す方法。ヒアリの巣を探す場合には、ヒアリが営巣地として好む環境(公園や畑などのひらけた環境)を中心に。またヒアリの個体を探す場合には、コンテナヤード内のコンテナ周辺や土が出ている地面を中心に探す。

目視調査は比較的容易に行うことができ、粘着トラップや誘引餌を用いるよりも短時間で広範囲を確認することができる反面、作業員がヒアリの巣や個体の特徴を多少なりとも現場判別できる技術を必要とする。

1. 調査時期

【巣を探す】:調査はヒアリの巣を見つけやすい冬(12月～2月)に実施するのが良い。

【個体を探す】:調査はヒアリの活動が活発な秋(10～11月)に実施するのが良い。

2. 調査を実施する

【巣を探す】:調査エリアを歩きながら主に土がある場所にヒアリの巣がないかどうか探す。

ヒアリの巣を探す

わかりやすいヒアリの巣



道路沿いや空き地の中は見つけやすい。
塚は20cmほどの高さになる。

冬場は塚の表面が特徴的で(ふかふかしている)、ただの砂山との見分けが付きやすい。

わかりにくいヒアリの巣



できてすぐの小さな巣や木の中の巣、夏場乾燥した巣はわかりにくい。

【個体を探す】: 調査エリアを歩きながら、歩いているアリを見つけてヒアリかどうかを確かめる。

ヒアリの個体を探す

頭と胸が赤く、腹部は黒い。体全体がツヤツヤしている。
行列ができている場合、行列の中に様々な大きさの働きアリが混ざる。



体長
2~6.5 mm

実寸大



※様々なサイズの働きアリが混在

※ヒアリの巣やヒアリと疑わしいアリを確認した場合、その場所を記録し(GPS 位置座標を記録)、通報する(沖縄県ヒアリ対策総合マニュアルの P.10 へ)。アリを採集できる場合は、市販の殺虫剤かアルコールでアリの動きを止めてから採集キットやピンセットでアリを採集し、通報とともに提供する。